

<従来の有機農業>

・食品の安全性や環境との調和などの理由で、農薬や化学肥料などの人工的な農業資材を使わずに、病害虫を回避し生産する農法。

つまり、人の健康、自然環境を守るため、化学肥料や農薬を使わないで病害虫に立ち向かう技術。病害虫は敵で、排除しようという概念から抜け出していない。

(除草、天地返し、田畑輪換、太陽熱消毒、銅剤、天敵、微生物農薬、防虫ネット)

広義の有機栽培・・・化学肥料を使わずに、ボカシ肥料などを使って育てたもの。無農薬とは限らない。

JAS 法による有機栽培農産物・・・3年以上、認可されたもの以外の化学合成農薬や化学肥料を使っていない。

<新時代の有機農業（菌ちゃん野菜）>

・生命循環という自然界の営みに沿って、有機物（死んだ生物体）を土に戻し、微生物(菌ちゃん)の力を活用して育てる方法

有機物投入⇒ 微生物（小動物）が爆発的に増える⇒微生物代謝物質を野菜が吸収してより健康になる。

⇒ 低分子化された有機物を、微生物を通して植物が直接吸収することでより健康になる。

つまり、人の健康を高めるため、作物をより健康にして病害虫が来る必要のない作物を育てる技術。

病害虫にも地球上の大切な役割があり、病害虫は周りにいるのに、病害虫にやられない野菜こそ、健康な野菜である考える。

<有機農業を大きく分類すると>

○様々な有機物（有機肥料）を畑に投入する

主な有機物・・・魚や肉など食品製造中の廃棄物（米ぬか、油かす、魚粉、骨粉、その他）、食べ残し、下水処理、畜産堆肥、農産物残渣、海藻

これらは急に入手できなくなるかまたは高騰する可能性

マメ科の緑肥作物を育ててすき込むことで、肥料分を供給する

○有機肥料は投入しないが、それ以外のチッソ肥料分にならない有機物（草、竹、木など）は外部から投入する・・・炭素循環農法

○有機物さえも、できるだけ外部から持ち込まない農法

出来るだけ耕さない、機械を使わない・・・自然農

必要に応じて耕す、機械も使う・・・自然栽培

<菌ちゃん野菜作りのポイントは土作りと微量栄養素>

